

日本山岳会 越後支部報

第 3 号

平成24年1月20日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 山崎 幸和
新潟県燕市吉田大保町4-8
TEL・FAX 0256-93-2655
広報委員長 加藤 明文

私の一枚

1961年、さわがに山岳会を結成して二つの目標を立てた。梅海新道の開設と元旦山行であるが、この目標はすでに半世紀を継続している。還暦の剣岳、古稀の槍ヶ岳、そして71歳の北岳と元旦の頂きを巡踏した。

小野 健 (糸魚川市)



年頭挨拶

あけましておめでとうございます。会員各位におかれましては佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当支部は設立して今年で六十六年となりますが、支部運営は大きな転換期を迎えることとなりました。ご存知のように、本会は二十二年度第二回通常総会で「公益社団法人」へ移行決議、二十三年度第一回通常総会で移行への「定款変更」が承認され、全国各支部はその体制づくりに本格的対応を迫られております。

当支部も数年前からその対策を検討してきましたが、登山を通して社会にどう貢献できるか、その為にはどう活動したらよいのか、しかも会員も楽しく参加できるには、等等検討すればするほど問題は山積しています。それには先ず予算面での対応が不可欠でありまして、各位のご理解をいただき二十三年度から二十五年ぶりに支部会費制実施などの「支部会則」の改正をさせていただきます。そして「内規」も新しく制定、発足した六部門の各専門委員会もあれこれ模索しながら活動開始したところで、

最初は急がずゆつくりと、をモットーに

越後支部長 山崎 幸和

して急なアクセル・ハンドル・ブレーキ操作は慎んでのスタートですので、今しばらく猶予お願いいたします。

さて、堅苦しい話はこの位にして、やはり楽しい山の話をご聞かせ戴きたいものです。というのは、関川村にある「藤島玄山岳文庫」の整理に当たった支部の図書委員が、昭和二十〜四十年代頃の古い懐かしい県内の山岳写真を多数発見し保存しております。もう再現不能な貴重な写真が地域別に区分けしてあるそうで、この活用を検討したら、今原稿募集中の支部機関誌「越後山岳・第十二号」の「越後と会津の山の今昔」の特集企画となったそうです。

若かりし頃の朝日飯豊連峰、下田守門山塊、魚沼・谷川・苗場や頸城の山々、会津の山などの回想や山小屋、登山道などの変貌を綴って、後世に残すのも会員の大事な務めでもあります。また題材にこだわらず越後・会津の山の紀行、研究を綴ること、寄稿することも同じかと思えます。

併せて、本「支部会報」への寄稿も随時お願いいたします次第です。

今年も各位のご健勝を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

歴史

明治の時代に外交官として

妙高山に登ったアーネスト・サトウ

七沢恭四郎（上越市）

明治十三年（一八八〇年）イギリスの外交官アーネスト・サトウは五月二十四日東京を出立し、六月十五日まで、長野、新潟と三週間の旅に出た。秩父を抜け、八ヶ岳のふもとに来て、五月二十九日主峰赤岳の天狗岩まで登ったが、霧深く登頂を断念した。その後慈光寺・戸隠神社まで来て、中院に泊り奥ノ院まで上がったが、霧のため断念する。六月三日には飯縄山登頂し、夕方赤倉温泉村越屋に泊り、次の日六月四日に妙高山に登頂した。日記によれば、四時十分に起床し、気温十度で空には雲がなく、案内人一人を連れて五時半に出発した。赤倉山の麓にある硫気孔域へと案内され、笹藪の道を行って行った。二時間で硫気孔まで行くと、二つの温泉があった。雪渓を四十分程登って山道に出たが、途中案内人が道に迷い、その後道が見つかり、笹藪の急登の道を行くが、サトウは笹藪を避け、雪の急斜面を登り斜めに横断した。岩場の鎖場では小さな岩棚で足を休め、小さな雪田を見ながら噴火岩と岩屑の上を登る。険しい道を十分くらい登り、十時十分前に頂上に着いた。かなりの疲労の中、コケモモを二種、ヒゲノカズラ類のイワヒゲとアズマイチゲ、オニク、ツガザクラを見つけた。ツガザクラとイワヒゲはまだ花を付けていない。十一時十分より下山し、雪

の斜面を下るとき一、二カ所進みにくい危険な箇所があった。また案内人は何度も道に迷ったが、探索して見つけた。標本用に適した手の平状のシラネアオイ、未知の花（サンカヨウ）を見つけた。三時ちようどに宿に着き、食事をしてから新井に行き宿泊する。妙高山登山は此のように記されている。その後直江津、柏崎、弥彦と旅をして、六月七日には新潟に着いた。「新潟はサトウにとって、色々の思いであるところである。慶応三年（一八六七）公使ハリパークスに従って、軍艦で来る。それは英語人の居留地の候補地を探すための公務であった。また明治二年（一八六九）第一回の賜暇で英国に帰っている時、シドマスの別荘に、英国の外務省から一通の手紙が届き、新しく新潟に開設される領事館の領事候補になる意思はないかとの問い合わせがあった。当時サトウは通訳生から通訳官と昇進していた。だが新潟領事の就任の申し出を断った。内心では辺地新潟で、自ら課した人生の結論を満たす訳にはいかない、それは日本の中心である江戸に於いてこそ求められるものであると結論付けていたからであろう。」それから十三年ぶりの、新潟では英国人宣教師ファイソン、医療宣教師パーム「パーム病院開設と医療活動に従事、地方病である、ツツガムシ病をヨーロッパで発表し。」等二人に会う。六月九日に新潟を立ち、信濃川を遡って三条、長岡、小千谷で縮織を買い、川口、堀之内、浦佐、六日町、塩沢、湯沢、三国峠を越えて、渋川、熊谷、鴻巣を経て、六月十五日に東京に着き、旅は二十三日間要した。この旅行の中の妙高山登山については、前の年明治十二年（一八七九）十一月十五日に出発した、伊勢、紀和、京阪の歴史を訪ねる旅で、帰りに滋賀、愛知、長野を通り、下戸倉の冠着岳に十二月二十七日に登った時、雪に覆われた周囲の山々の眺望を楽しみ、純白の雪峯、戸隠、大飯縄、小飯縄、黒姫、妙高をトラベリング・ノートに展望図をスケッチしたことから端を発しているように思われる。明治十四年（一八八一）三月、サトウとホーズの共著で「中央部北日本旅行案内」の初版が刊行され、その中に妙高山が紹介されている。

山の紹介

県北① 天蓋山

遠山 実（村上市）

天蓋山は、高根集落の北に位置する独立峰の山である。天正・慶長年間、豊臣秀吉に運上されたと言われる、全国一の産出量を誇った（慶長三年伏見蔵納目録）鳴海金山の往来道の一角にある。当時の集落は、相ノ俣川右岸の元屋敷（今も屋敷跡が残る）にあった。金山衰退後、現在の地で集落形成されている。山名の由来は、高根集落の菩提寺であ



る曹洞宗龍山寺の山号を天蓋山と称したと言われる。本尊は釈迦如来で承応元年（一六五二）旧神林村有明、光浄寺四世によって開山された。

天蓋山までは、高速道路朝日まほろばIC、国道七号線早稲田から関口集落を経て高根。広域農道北中・高根線を北上し、天蓋大橋先から右へ九〇〇メートルに登山口がある。

登山道は、人工林と自然林の境界の急登を約四十分で山頂に着く。

山頂からは、四方山々にたたずむ高根集落、広大な面積の林野、眼下には高根ブランド米の棚田、村上市街、遠く飯豊、朝日連峰、新潟・弥彦などの大展望は絶景である。山頂に建つ観音菩薩像が生業の里を見守っている。

新名誉会員に

室賀輝男・元支部長

去る十二月三日開催された平成二十三年
度年次晩餐会（品川プリンスホテル）で、
元越後支部長の室賀輝男会員が晴れの名誉
会員になりました。永年にわたる新潟県
岳界発展への尽力功績が認められたもので
す。岳人の最高の荣誉として認識されてい
るこの名誉会員には、会創立以来一〇六年
間において県内からわずか大平晟、高頭仁
兵衛、藤島玄、金山淳二、笠原藤七の五人
だけでしたが、室賀元支部長はこれで六人
目であります。誠におめでとうございます。

藍綬褒章受章

山崎 幸和

（自然公園指導員）

多年にわたり、自然公園指導員とし
て、佐渡弥彦米山国定公園を中心に、
動植物の保護、利用者の指導、美化清
掃活動等に尽力し、自然保護思想の普
及啓発に貢献した。

環境大臣表彰受章

遠山 実

新保岳や天蓋山の登山道新設や朝日
連峰三面口の清掃活動などにより十月
一日、新宿御苑にて受章。

第一回中部ブロック

四支部交流会へのお礼

支部事業委員会 井出 秀雄

中部ブロック四支部による交流会は、今
回が最初であり、どのような目的意識で進
めれば良いのか、悩みましたが、一回目で
もあり支部間の親睦を深める事に主眼を起
きました。

四支部会員の方々のご協力をいただきな
がら無事に支部間交流会を終える事が出来
ましたことにお礼申し上げます。（交流会
の詳細は日本山岳会会報・山 九月号・No.
七九六号に）

越後支部参加者は十三名・事業委員長、
井出秀雄・先導、込山孝・最後尾、小山一
男・成海修・各支部付き、吉田理一、治田
利治、佐藤レイ子、浜田啓子、他は遊動隊、
現地解説案内役・滝沢寿一・中沢武彦

この度ご支援ご協力をいただきました越
後支部会員と、津南町役場及び、ご案内い
ただきました津南山岳会のお二方に併
せ、感謝とお礼を申し上げます。
大変ありがとうございました。



ニシキマンサク

弥彦山パトロール

支部自然保護委員会 桜井 昭吉

日本山岳会自然保護の歴史は古く、
一九〇三（明治三十六）年尾瀬ヶ原のダム
計画に端を発し、一九六三（昭和三十八）
年日本山岳会が自然保護委員会を組織して
西穂のロープウェー、上高地スカイライ
ン計画の阻止に取り組んで成果をあげて
四十八年になる。

日本山岳会の各支部においても自然保護
活動が活発となり、一九七〇年代に至って
高山植物の保護運動、山のゴミ問題などの
取り組みが始まった。この中で越後支部で
は、清掃登山で成果を残した「新潟県山の
ゴミ会議」を提唱した故猪俣信一氏の功績
が伝えられている。

その後、一九七六（昭和五十一）年各支
部に自然保護委員会が組織され、一九九一
（平成三）年第十七回自然保護全国集會を
新発田市で開催するなど越後支部自然保護
委員会の活動記録が残っている。

現在、支部自然保護委員会の活動状況は、
行事に関連する総会登山、高頭祭など参加
者による清掃登山と、県山協が行う自然保
護研修会に参加していました。さらに活動
の場を広げようと他支部では見られない越
後独自の早春の山野草（雪割草、カタクリ
など）保護活動を弥彦山のパトロールに取
り組みます。支部の皆さんのご参加をお願

いします。

日 時 平成二十四年三月二十五日（日曜）

午前八時二〇分

集合場所 弥彦駅前（集合後に弥彦山南側

地域へ移動する）

参加申込 桜井昭吉 電話・ファックス

〇二五・七九二・〇八五三

※平成二十三年度支総会議案の役員名簿で
自然保護専委員と支部報第二号の役員名簿
に高辻謙輔さんの名前が落ちていました。
お詫びして追加をお願いします。

越後支部年次晩餐会報告

広報委員会

平成二十三年度日本山岳会越後支部年次
晩餐会が十二月十日、東映ホテルにて開会
された。桐生事務局長の進行にて室賀輝雄
氏の本部新名誉会員や藍綬褒章受章の山崎
幸和支部長、環境大臣表彰の遠山実氏など
会務報告の後、鹿野勝彦氏の記念講演とな
る。

鹿野氏はナンダ・デヴィ縦走とカンチエ
ンジェンガ縦走の登山隊長で、演題は「ヒ
マラヤ縦走」私達が目指したチームとして
の登山」。

新潟県山岳協会会長の阿部信一氏の祝辞
の後、平田大六支部名誉会員の乾杯、新人
紹介など宴たけなわとなった。

山靴

あれから三十年

佐竹 秀子 (会津)

私が十八歳の時、父について行った玄山会で主人と出会いました。あの頃は飯豊山で、私はおとなしく後からついて歩き、主人はやさしく花の名前を教えてくださいました。飯豊山で見た流れ星に「この人にずっとついていきますように。」とお願いました。玄さんや矢田目さんをはじめ、山岳会の人達のお世話になって夢がかないました。この時の山の友達のつながりが今でも続いています。

その後、息子達をつれての登山となり、親が行きたいばかりに、主人はカメラをかつき私が子供をおんぶしてと、鳥屋山の山開き、雄国の清掃登山、尾瀬へとつれて行きました。小学生になると、友達が夏休みにはテーマパークへ行くのを、息子達はうらやましがりながら、我が家は飯豊山、磐梯山、早池峰山、上高地、乗鞍と、登山ばかりでした。今思いますがこの頃が大変でしたが、楽しい時でした。
そしてまた二人で歩いていますが、あのおとなしい私、やさしい主人はどこへやらで、お互いに「言った。」「言わない。」「聞いた。」「聞かない。」「の毎日です。長い冬が終わる春になると、「新緑が見たい。」秋になれば「裏磐梯の紅葉見ないと冬が越せない。」とさわく私に「うるさい。」と言いつつながらも、自分もカメラを持ってつれて行ってくれます。
本当にあれから三十年ですが、これから

もお互い元気に、楽しい山仲間といっしょに、ゆっくり山歩きをしていきたいです。

事務局連絡

一 支部会費納入依頼

七月末に支部会費納入依頼書を発送致しましたが、八月末までの未入金者三十一名の会員に再度会費納入依頼書を発送し、その後十一月二十日現在までの未入金会員は十二名です。未入金該当会員の方は、至急支部会費の振込をお願いします。
支部会費振込先：郵便振替口座
0052016197779
加入者名 社団法人日本山岳会越後支部
支部会費：一、〇〇〇円
(振込手数料二〇〇円は各自負担願います。)

二 支部会員移動連絡

(二〇一〇年十二月十一日)

1 物故会員 (三名)

- ① 赤澤 清彦 (No.2359)
- ② 田原 善治 (No.3494)
- ③ 堀川 正路 (No.5272)

2 退会会員 (六名)

- ① 小菅 秋 (No.5387)
- ② 三富 一弥 (No.7028)
- ③ 渡辺 正弘 (No.7443)
- ④ 漆山 昌志 (No.10940)
- ⑤ 松岡 正照 (No.12813)
- ⑥ 齋藤 寛 (No.13079)

3 新入会員 (五名)

- ① 高橋 初代 (No.14856)
- ② 小林 厚子 (No.14866)

- ③ 多田 政雄 (No.14935)
 - ④ 伊藤 直 (No.14944)
 - ⑤ 和田 守 (No.14964)
- 4 支部会友↓支部会員への移行 (三名)
- ① 平野 彰 (No.6928)
 - ② 荒井謙之輔 (No.7953)
 - ③ 原田 啓子 (No.10581)

5 支部会員総数

二〇一〇年十二月十一日現在
支部会員数 二二二名

(支部会員二二六名、会友五名)
二〇一一年十一月二十日現在

物故会員 三名
退会会員 六名
新入会員 五名

二〇一一年十一月二十日現在
支部員総数 二二七名

6 支部会員住所変更

(支部会員二二五名、会友二名)
① 荒井 辰彌 (No.6096)
〒九五〇一〇二六

新潟市東区小金町三一四一三一
Tel: 〇二五一二七三三八四六一

② 新島 二郎 (No.10117)
〒九五五一〇五五
三条市塚野目一ー一ー五
ハイツユートピア21D1号室
Tel: 〇二五六一三九一〇八八

三 今年の行事予定

十月二日に開催された支部三役・委員長会議にて、今後の会議(役員会、委員長会議)日程を定例化しました。

1) 全体役員会議日程は、五月第四土曜日(総会開催日)と十二月第二土曜日(支部年次晩餐会開催日)とする。

2) 委員長会議日程は、六月、九月、三月を実施月とし、開催日は事務局の一任とする。

掲示板

機関誌「越後山岳」十二号の原稿がかなり不足しております。平成二十四年六月までメ切を伸ばしますので御協力下さい。

テーマ 越後と会津の山の今昔ー古い写真等を活用した山に関する文章。

問合せ 「編集委員」筑木力、高辻謙輔、遠藤俊一、佐藤レイ子

本年度の総会日

五月二十六、二十七日で場所は未定(中越地区)

編集後記

吹雪がおさまったある日、マルバマンサクの花が開いていた。春一番最初に咲くので、「まず咲く」がなまって満作の説、枝にそっくりな所から「不作」転じて満作の説(中村浩博士)、川辺のアシ(悪し)をヨシ(良し)と呼んだり梨の実(無)をアリの実(有)と云うが如し、日本人は米との関係が深いからなあ。

今号もモメながらなんとか、この辺で筆をおく。(明)